

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月3日

### 【評価実施概要】

事業所番号	0872400262		
法人名	有限会社 SESケアネット		
事業所名	あっと ホーム きりん荘		
所在地	茨城県守谷市立沢950-1 (電話) 0297-20-0733		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成21年2月25日	評価確定日	平成21年7月2日

### 【情報提供票より】 (平成21年1月10日事業所記入)

#### (1) 組織概要

開設年月日	平成17年3月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤	5人, 非常勤 7人, 常勤換算 6.9人

#### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1階建ての ~ 1階部分		

#### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

#### (4) 利用者の概要 (平成21年1月10日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	4 名	要介護2	1 名		
要介護3	0 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.5 歳	最低	68 歳	最高	102 歳

#### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	守谷慶友病院
---------	--------

### 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同一法人が運営するデイサービスやショートステイ、在宅介護支援センターが同じ建物内にあり、合同の催事や利用者が自由に往き来することができるため、住みながらにして外部の空気も味わえる開放的なホームである。  
四季を感じる草花や手作りの品などが飾られ、家庭的な雰囲気のもとで利用者が生活をしている。  
理念に「あなたの全てを受け入れます」と謳っており、管理者や職員は理念の実践のために利用者一人ひとりに寄りそう支援をしている。

### 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>研修報告の作成と全職員による内容の共有は改善している。 市との連携は徐々に改善してきているが十分とは言えない状況なので、引き続き連携を強めるような働きかけを期待する。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)</p> <p>管理者や職員は外部評価の意義や目的を理解しており、全職員で自己評価をしている。 外部評価結果は運営推進会議で報告するとともに、玄関に置き誰でも閲覧ができるようにしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は利用者の家族や地域の代表、市職員、ホーム職員で2ヶ月に1回開催している。 会議ではホームの活動報告や施設内見学を通してホームへの理解を求めるとともに、地域交流などの意見や助言を得ている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)</p> <p>管理者や職員は家族が意見を言い易い関係を築いているが、家族会を設立したり意見箱を設置するまでには至っていないので、家族の意見を汲みあげる体制として意見箱の設置や家族会の結成、アンケートの実施が望まれる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)</p> <p>年1回事業所主催の交流祭に地域の人々を招待したり、太鼓や金管楽器などの演奏、マジック、ソフトテニスなどのボランティアを受け入れ交流している。 ホームと地域の人々が支え合うような双方向関係を構築するためにも自治会に加入し、地域行事に参加したり地域貢献の一環として認知症や介護についての講習会などを開催することを期待する。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は全職員で話し合っつくり、利用者が地域の中で安心して自分らしい生活ができるよう支援することを旨として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関やキッチンに掲示するとともに、ミーティングや日々の申し送り時などで確認しケアの実践に努めている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年1回事業所主催の交流祭に地域の人々を招待したり、太鼓や金管楽器などの演奏、マジック、ソフトテニスなどのボランティアを受け入れ交流している。	○	ホームと地域の人々が支え合うような双方向関係を構築するためにも自治会に加入し、地域行事に参加したり地域貢献の一環として認知症や介護についての講習会などを開催することを期待する。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は外部評価の意義や目的を理解しており、全職員で自己評価をしている。 外部評価結果は運営推進会議で報告するとともに、玄関に置き誰でも閲覧ができるようにしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は利用者の家族や地域の代表、市職員、ホーム職員で2ヶ月に1回開催している。 会議ではホームの活動報告や施設内見学を通してホームへの理解を求めるとともに、地域交流などの意見や助言を得ている。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の研修会や連絡会議などに出席して交流しているが、ホーム側から積極的に連携を働きかけるまでには至っていない。	○	介護相談員の受入れや市職員の研修の受入れを働きかけるなどの取り組みを期待する。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族へは月に1度請求書とともに暮らしぶりなどを載せた広報誌や個別の連絡事項などを記入して報告している。 体調に変化があった場合や特別な事情がある時は、その都度電話連絡をしたり面会時に説明や報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員は家族が意見を言い易い関係を築いているが、家族会を設立したり意見箱を設置するまでには至っていない。	○	家族の意見を汲みあげる体制として意見箱の設置や家族会の結成、アンケートの実施が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、利用者への影響を考え異動や離職を必要最小限に抑える努力をしている。 同一建物内での異動のため、馴染みの関係が継続され利用者へのダメージは少なくなっている。 家族の面会時に職員の異動を報告している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経営者は職員育成の必要性を理解しており、新任研修や段階に応じた研修を計画通り実施し、研修終了後は報告書を作成するとともに全職員が内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内に3つのグループホームがあり、他のホームの運営推進会議にオブザーバーとして出席し合うなどで交流している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者は同一建物内のデイサービスやショートステイ利用からの移行が多く、馴染みの関係を築き易い状況になっている。 利用希望時には管理者等が自宅や病院等を訪問して面談するとともに、ホーム見学をしてもらうなどで馴染めるよう配慮している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用開始時に生活歴を把握するほか、一日の過ごし方や趣味、得意なこと、苦手なこと、性格などをアセスメントしたうえで利用者と同じ目線での支援を心がけている。 また、職員は利用者から生き方や感じ方、感謝の心などを教えてもらい、互いに支え合う関係を築いている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホームの理念の一つに「あなたの心の声に耳を傾け、想いが叶えられる様に努力します」と謳っており、職員は実践に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は家族同席のカンファレンスで全職員で意見を出し合い作成している。 作成した介護計画は、家族の確認印を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは6ヶ月に1度行うとともに、心身の状況に変化が生じた場合はその都度見直している。 3ヶ月ごとに支援経過を確認して介護計画を評価し、記録を残している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師を配置しているため、利用者の健康管理はもとより緊急時に24時間対応できる体制になっており、利用者や家族の安心につながっている。 家族の協力を得てお盆や彼岸の墓参り、法事の参加、理美容院への送迎などを支援しているほか、家族の宿泊も支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院による週1回の往診のほか、利用者や家族の希望にそって歯科医の往診や皮膚科、精神科への通院を支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアの対応マニュアルに基づき、重度化した場合の同意書や看取り介護の依頼書並びに同意書を作成し、利用者や家族の確認印を得ている。 終末期ケアについては主治医の指示のもと全職員で方針を共有し支援している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いを契約書に明記するとともに個人情報使用承諾書を作成し、利用者や家族の同意を得ている。 職員は一人ひとりの尊厳を第一に考え、プライバシーを損ねないよう支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の個別性を尊重し、その日その時の希望にそって支援している。 夜中に起き出してくる利用者には、温かいお茶を呑みながら会話するなど利用者寄り添う支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い出しから食事の準備、調理、配膳や下膳、食器洗いや食器拭きまで利用者と職員と一緒にしている。 利用者と職員が同じ食卓を囲み、介助が必要な利用者に職員のみならず利用者も支援し、和やかに会話をしながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にそっていつでも入浴できるよう支援している。 柚子湯や菖蒲湯、入浴剤などの日を設け楽しく入浴ができるよう工夫をしている。 機械浴も利用できる体制になっている。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月に1回環境デーとして利用者と全職員でホーム内を掃除している。 洗濯物干しや洗濯物たたみ、畑仕事、植木の手入れ、針仕事、編み物など一人ひとりの能力に応じて役割が担えるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調に配慮しながら、敷地の周りや近隣の散歩などいつでも戸外に出られるよう支援している。 買い物を希望する利用者には、個別に職員が付き添うなど一人ひとりの希望にそった支援をしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者や職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関や中庭への出入口は日中施錠をしていない。 利用者の外出を察知した場合は職員が付き添い支援をしている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導のもと年2回の防災訓練を実施し報告書を作成するとともに、反省点や課題を記録し改善方法を検討している。 ホーム分として水と乾パン3日分を準備している。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	持病などで食事制限のある利用者には、医師の指導のもと食事管理をしている。 利用者全員の食事や水分摂取量のチェックはしていないが、利用者の変化を察知して看護師と連携を図り、必要がある場合は個別にチェックする体制になっている。	○	利用者全員の食事や水分摂取量を記録し、全職員で共有することを期待する。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	管理者は利用者が四季を感じて暮らすことの大切さを理解しており、共用空間には節句や季節に応じた装飾品、草花が飾られている。 トイレや風呂などの表示や誘導矢印は利用者の目線に合わせ見やすい位置に設置されている。 炬燵のある畳敷きスペースやリビングに続くウッドデッキ、中庭にベンチなどがあり利用者が居心地よく過ごせる空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベッドや箆笥などの使い慣れた家具、手作りの飾り物や写真、位牌など身近に置きたい品などを持ち込み、安心と安らぎのある場所になっている。 それぞれの居室の入口は、名札や暖簾で個性のあるものになっており、利用者が他の人の部屋と間違わないよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。